

バックアップ・リカバリ ～研修受講後テスト～**■問題1【障害の種類と対応】**

データファイルに障害が発生した場合の対処について、正しいものをすべて選びなさい。

- ユーザーデータ用表領域が破損したため、SHUTDOWN ABORTでデータベースを停止した。
- 完全リカバリに必要なアーカイブREDOログ・ファイルが破損していたため、不完全リカバリを行った。
- ユーザーが誤って表を削除したため、バックアップを使用して完全リカバリを行った。
- SYSTEM表領域が破損したため、マウント状態で完全リカバリを行った。

■問題2【インスタンス障害からのリカバリ】

インスタンス障害からのリカバリについて、正しいものをすべて選びなさい。

- インスタンスを再起動すると、サーバープロセスがリカバリを行う。
- 制御ファイルに記録されている最新のチェックポイント SCN をもとにリカバリが行われる。
- リカバリ時間が長い場合は、チェックポイントの発生頻度を増やす。
- 障害発生時、未コミットだったトランザクションの REDO レコードは除外してロールフォワードされる。

■問題3【メディア障害に対する備え】

メディア障害に対する備えとして、誤っているものをすべて選びなさい。

- オンラインREDOログ・ファイルを多重化すると、インスタンス停止の可能性を軽減できる。
- ARCHIVELOGモードの切替えは、データベースをオープンした状態で行う。
- アーカイブREDOログ・ファイルの出力先を多重化できる。
- 制御ファイルを多重化すると、一部の制御ファイルが破損してもインスタンスは停止しない。

■問題4【バックアップ】

データベースのバックアップについて、正しいものをすべて選びなさい。

- SHUTDOWN IMMEDIATEで停止した状態で取得したバックアップはリカバリで使用できる。
- ARCHIVELOGモードでは一貫性バックアップを取得できない。
- 非一貫性バックアップ（オンライン・バックアップ）は、表領域をバックアップ・モードに切替えて行う。
- オフライン/オンライン・バックアップに関わらず、Windowsの場合はOCOPYコマンドを使用する。

■問題5【データファイルの障害とリカバリ】

以下のデータファイル障害が発生した場合、完全リカバリが可能なケースを1つ選びなさい。

- NOARCHIVELOG モードで運用中、ユーザーデータ用表領域に障害が発生した。バックアップ取得後の REDO エントリはオンライン REDO ログ・ファイルから上書きされている。
- ARCHIVELOG モードで運用中、SYSTEM 表領域に障害が発生した。データファイルのバックアップはあるが、CURRENT 以外のオンライン REDO ログ・ファイルが上書きされている。
- ARCHIVELOGモードで運用中、ユーザーデータ用表領域に障害が発生した。データファイルのバックアップはあるが、バックアップ取得後のアーカイブREDOログ・ファイルが一部欠落している。

■問題6【オンライン REDO ログ・ファイルのリカバリ】

オンライン REDO ログ・ファイルの障害対策とリカバリについて、正しいものをすべて選びなさい。

- CURRENTのオンラインREDOログ・ファイルがすべて破損すると、完全リカバリは行えない。
- ACTIVEのオンラインREDO・ログ・ファイルがすべて破損した場合、データベースを一旦停止する。
- 多重化したうちの1つに障害が発生した場合、同じグループのファイルをすべて再作成する。
- オンラインREDOログ・ファイルの多重化は、マウント状態で行う必要がある。

■問題7【制御ファイルのリカバリ】

制御ファイルの障害対策とリカバリについて、正しいものをすべて選びなさい。

- 多重化したすべての制御ファイルが破損した場合、物理バックアップ・ファイルがないとリカバリできない。
- 制御ファイルを多重化していると、一部の制御ファイルが破損しても現存する制御ファイルを使用してリカバリできる。
- バックアップ・ファイルを使用した制御ファイルのリカバリでは不完全リカバリを行うため、表のデータが失われてしまう可能性がある。
- 制御ファイルの再作成を行う場合に備えて、制御ファイルのトレース・バックアップを取得しておく。